農 業 技 術 情 報

令和8年10月19日

ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝普及センター十勝東部支所	015-572-3128
ＪＡ幕別町	0155- 54-4118
ＪＡさつない	56-2131
ＪＡ帯広大正	64-4591
日甜幕別原料事務所	54-2756
幕別町農林課	54-6605

★各作物の生育・作業の遅速（幕別町１０月１５日）（)内は平年値

作物名	遅速日数	生育および作業状況	生育期節
秋まき小麦	±０	草丈 14.4 (14.7)cm　葉数 2.6 (2.6)枚 茎数 281 (253)本/㎡ は種終 10/4 (10/3)	出芽期 10/2(10/2)
馬鈴しょ	－	収穫終 9/26(10/3)	
大　豆	－	収穫始 10/12 (10/3)	成熟期 9/24(9/27)
小　豆	－	収穫期 10/8 (10/5)	成熟期 9/19(9/15)
てん菜（移植）	早５	根周 46.5(44.3)cm　収穫始 10/4(10/10)	
てん菜（直播）	早５	根周 38.4(35.5)cm	
飼料用とうもろこし	－	収穫終 10/2(10/2)	
ながいも	－	いも長 77.6(76.8)cm　いも重 1410.7(1300.6)g いも径 77.3(68.0)mm　乾物率 14.8 (13.9)%	

薬剤使用にあたっては、各部会や販売先等の基準に従ってください。
薬量および倍率は基準内に抑え、薬害やドリフトには十分注意してください。

畑　作

＜秋まき小麦＞

雪腐病は連作ほ場および、遅まき・深まきによる生育量不足のほ場で発生しやすくなります。適切な時期に雪腐病防除を行いましょう。

1 雪腐病防除

雪腐病の種類によって薬剤の効果が異なるので、過去の発生状況に応じた薬剤の選定が重要となります(表１)。

また、殺菌剤の防除効果の低下は、散布から根雪始までの期間の降水量が大きく影響します(表２)。散布から根雪までの期間が長いと、その分降雨に遭う確率が上がり、防除効果が低下するリスクが高くなります。気象やほ場、散布機械の運用面などを考慮して、できる限り根雪に近い時期に散布しましょう(表３)。

表１　雪腐病の防除薬剤例

薬剤名	RAC ｺｰﾄﾞ	使用濃度（倍）	使用回数（以内）	使用時期	紅色雪腐病	黒色小粒菌核病	褐色小粒菌核病	大粒菌核病
フロンサイドＳＣ	２９	1000	２回	根雪前	●	●	●	●
トップジンＭ水和剤	１	2000～2500	３回		×	×	×	●
シルバキュア フロアブル	３	1000～2000	１回		×	●	●	×

※● 道指導参考である　× 登録無し

表２　雪腐病に対する殺菌剤の残効性と防除の目安(H26 普及推進事項)

薬剤名	根雪日までの積算降水量	
	雪腐大粒菌核病	雪腐黒色小粒菌核病
フロンサイドＳＣ (1,000 倍)	120mm (日最大降水量 65mm)	120mm (日最大降水量 65mm)
トップジンＭ水和剤 (2,000 倍)	80mm (日最大降水量 40mm)	－
シルバキュアフロアブル (2,000 倍)	－	100mm (日最大降水量 40mm)

※発病度 25（起生期以降の生育のばらつきの要因となりにくい雪腐病発生水準）を超える降水量の目安。
※無人ヘリコプターによる散布は検討していない。
※フロンサイドＳＣ、トップジンＭ水和剤、シルバキュアフロアブル以外では上記雪腐病に対する残効性の防除目安はない。

表３ 過去の根雪初日(各年次ﾃﾞｰﾀは帯広測候所調べ)

年次	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	10 年平均
根雪初日	12/6	11/18	12/6	12/2	(R3) 1/7	(R4) 1/2	12/17	12/12	12/31	12/3	12/13

※根雪初日は積雪が 30 日以上継続した場合に遡って決められる。

＜てんさい＞

1 収穫時・貯蔵時の注意点

2 次年度用育苗土の準備

3 ハウス内のアブラムシ対策について(黄化病)

9/17 および 10/5 付農業技術情報を参照

＜土づくり＞

1 堆肥の施用

窒素の溶脱を避けるためには、できるだけ気温が低くなってから施用し、散布後に耕起をしましょう。

2 土壌診断の実施

計画的で適正な肥培管理のために、３～４年に一度は必ず、土壌診断を実施しましょう。特に昨今は肥料価格が高騰しており、無駄な肥料コストを抑えるためにも、土壌診断に基づいた適切な施肥設計を行いましょう。

＊特に減肥銘柄肥料を使用している場合は定期的に診断値をチェックすること

＜ほ場の透排水性の改善＞

収穫後のほ場は、晴天が続く時期を見計らって心土破砕や広幅心土耕を行いましょう。ただし、施工時の土壌水分が効果に影響するため、なるべく「土壌が乾いたときに」「低速（時速２km/h 以下）で」「密に」「暗きょと直交するか、少なくとも平行しないように」施工することが重要です（いずれも暗きょが効いていることが前提）。

＜土の移動に注意＞

収穫・耕起作業などで土壌の付着した作業機のほ場への出入りが多くなりますので、土壌病害虫の侵入に注意しましょう。

以下の土壌病害虫は数年から数十年土壌中で生き残るため、特に注意が必要です。

表４ 注意すべき土壌病害虫とその対策

注意すべき土壌病害虫		具体的対策事項
害虫	・ジャガイモシストセンチュウ ・ダイズシストセンチュウ	・連作はしない ・ばれいしょは野良イモ対策を実施する（雪割りなど） ・抵抗性品種※を輪作体系に加える ・土の移動は極力避ける（プラウ、ロータリ、ハーベスタなどは、土を落としてから移動する）
病害	・コムギ縞萎縮病 ・コムギなまぐさ黒穂病	

※抵抗性品種例

ジャガイモシストセンチュウ～とうや、キタアカリ、さやか、ぽろしり、コナユタカ、コナヒメ

ダイズシストセンチュウ～ユキシズカ（レース 3 抵抗性）、ユキホマレ R（レース 1、3 抵抗性）

＜収穫後の機械整備＞

機械の点検・整備は機能の維持、耐用年数の延長、安全性の確保につながります。収穫が終了した作業機は掃除・洗浄を行います。機械格納庫で長期保管する前には以下の作業を行ないましょう。

- 燃料を満タンにし、バッテリーを外す。バッテリーは室温で保管し、比重計で比重を確認して充電状態を保ち過放電を防止する。
- 各部の点検調整を行い、さびやすいところは薄くオイルを塗り、湿気を避けて格納する。

野 菜

＜ながいも＞

近年、乾物率が低い(10月15日時点13.9%)傾向にあります。「つる降ろし」や「つる切り」のタイミングが早いと乾物率が低く、収穫時の折れ、皮ムケの原因や食味の低下につながります。茎葉の黄化程度やいもの尻部状態に応じて、つる切り日を判断してください。

表５　年次別乾物率(10/15時点)

作況日	平年	令和５年	令和６年	令和７年	令和８年
９月15日	11.3	8.8	9.0	10.0	8.5
10月15日	14.8	12.0	13.0	13.1	13.9

※乾物率は、(低)15%未満、(中)15～17%、(高)17%以上とされています。
乾物率が低いと貯蔵性、食味の低下に影響します。

1　つるおろし･つる切り

つるおろし・つる切りは可能な限り茎葉黄変後に実施してください。また、本年は乾物率が低い傾向にあるため、茎葉黄変後も茎葉を残せる場合は、できるだけ残し、品質向上に努めてください。

2　収穫の注意点

腐敗いもやクズいもの放置は土壌病害発生の原因になります。ほ場外へ搬出し処分してください。

日没が早まり、視界もすぐに悪くなります

薄暗がりでは機械の周辺で作業する人が見えにくくなります。
クラクションを鳴らし、周囲に合図をしてからゆっくり発進するようにしましょう。

★公道通行時は早めにライトを点灯し、「夜光反射板」や「低速車マーク」を装着しましょう。
★収穫機の調整や詰まりものの除去は、必ずエンジンを停止してから作業しましょう。
★衣服の袖口や裾はボタン、ファスナーを止めて身体に密着させましょう。
★靴やステップは泥の付着により滑りやすくなるため、乗降時は十分に注意しましょう。

